

AARP プロのボランティア を活用する!

溝田弘美

(AARPニューヨーク・ボランティアコンサルタント)

1998年にカリフォルニアの大学院で「NPOのマネジメント」のクラスを受講したとき、ケーススタディにAARPを選んだ。両親が15年前、神戸で社会福祉法人の「特別養護老人ホーム六甲の館」を設立し、社会福祉士として仕事をしていた私にとって、AARPの高齢者活動は1990年代前半から興味をひく存在であったからである。しかし、アメリカの大学院でクラスメートたちに「AARPは組織が大きすぎて官僚的、かつ閉鎖的だからケーススタディの対象にするのは難しい」と言われた。しかし、私の行った大学院はAARPの老年学センターがあり、AARPとのコネクションが深かったため、カリフォルニア州にある2つのAARPオフィス(州都サクラメント・ロスアンジェルス、ワシントンDCにある本部を訪問する機会に恵まれた。

現在、博士論文に取り組むが、リサーチの対象はやはりAARP。1999年からニューヨークに住むことになった私は、直接、AARPニューヨーク州オフィスとコンタクトをとり、リサーチを兼ねたボランティアをさせてもらうことに成功。現在、「ジョブハブ」というプログラムにて「ボランティアコンサルタント」の肩書きで活動している。

1. ボランティアコンサルタント

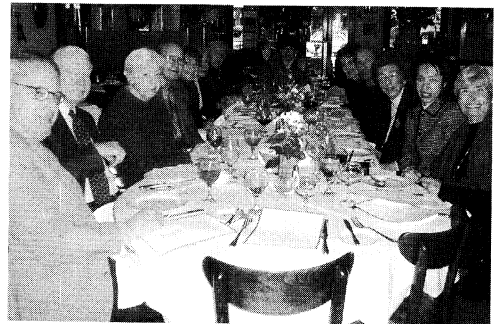
世界一の巨大NPO(会員3300万人)のAARP(会員資格は50歳以上のみ)では、基本的に会員がボランティアを行うことになっている。誰が見ても会員には見えない私であるが、ジャニス・ブルーナーという鋭い目をした怖そうなおばあさんが、AARPニューヨークオフィスで面接してくれた。私は大学院の博士課程で「高齢者政策とAARP」を研究しているため、研究をしながらボランティアをしたい旨を伝えた。私の専門が「政策科学」と言うと、ジャニスは「私は大学で政治学専攻したわ」と反応するしやきしやきの女性であった。しかし、その怖そうな外見とは反対に、私の要望を聞いて特別に許可してくれることとなった。

AARPはこの州に行っても、同じようなプログラムが行われており、その殆どが会員のボランティアによって運営されている。しかし、私の所属するプログラムは、全米でニューヨーク州オフィスが設立したニューヨーク州オフィスしか行っていない「ジョブハブ」(Job H



AARPボランティアワークショップ。

「ジョブハブ」忘年会。メンバー全員で。



ボスのシャーリー(右)とジャニス(左)。



みんなから贈られた結婚祝いのケーキ。

u b」というユニークなプログラム。ニューヨークの行政や財団、教育機関とのパートナーシップにより、50歳以上の失業者に就職を支援するプログラムである。この一連のプロセスの中でもAARPの役割は、求人広告を出しているニューヨーク市の企業・組織を見つけ、このプログラムの内容を理解してもらい、AARPのリストに登録してもらおう。行政や財団が予め面接を行って作成した失業者リストと照会させ、マッチングさせていく。最終の面接はAARPが行う。AARPのこのプログラムに携わる人は私を含めて18人のボランティアで、全員、「ボランティアコンサルタント」の肩書きを所有している。私の役割はこの一連の過程の中で、求人広告を出している企業を探し出し、AARP「ジョブハブ」の情報を送る広報活動。主に、ニューヨークタイムズ誌を使うが、毎週、「ニューヨークタイムズ」は何千もの企業・組織が求人広告を掲載している。はじめはITバブルで景気の良いニューヨーク市でこれほどの求人広告がありながら、なぜ、失業者が多いのであろうかと不思議であった。しかし、IT革命はコンピュータを使える人と使えない人とのデジタルギャップを生み出し、ITバブルは新たな失業者を生みだし、そしてホームレスも増加させたようである。私は仕事をしていくうちに、このAARP「ジョブハブ」のしているプログラムの意義や役割に一層の感銘を受けるとともに、ボランティアコンサルタントの専門性にも驚かされた。殆どのメンバーが若い頃に人事関係の仕事をしていたため、無給のボランティアワークとは思えないプロフェッショナルな働きぶり

である。ただ、メンバーの年齢が高齢なため、コンピュータを使ったデータ作成などが苦手で書類はすべて手書きであるため、私を含め2〜3人で今後の基礎データ処理を考慮中である。

2. その他の活動

(1) 国連—国際高齢者年

ボランティアコンサルタントになって、名刺やボランティア保険証書など様々なものを受け取ったが、なかでも嬉しかったのは、国連本部で開かれる「国際高齢者年」の採択10周年記念カンファレンスの招待状である。AARPの国際部が世界へ向けて働きかけてきた活動の一つである。国連本部で重々しいセキュリティチェックを済ませ、広いカンファレンス会場に入ると見渡す限り高齢者！午前中はゲストの各国大使のスピーチなど。午後は、アメリカで人気がある『ブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブ』の映画の紹介フィルムとディスカッション。パワフルなシニアパワーを感じさせるカンファレンスであった。

(2) ボランティアワークシヨップ

AARPで正式にボランティアとして認められたものは、必ずワークシヨップを受けなければならぬ。ボランティアの段階にもよるが、私が既に受けたのは、1日がかりの基本コース。AARPの組織の内容、サービス、そして理念、ゴール、ビジョンなど、ボランティアの講師（中には博士号を所有する人も多い）によるレクチャーが行われ、何度もグループ別ケーススタディ・発表を行う。巨大化、複雑化したAARPの裏側を学ぶ1日であった。

(3) 恒例忘年会(?)

AARPは極端な言い方をすれば「アメとムチ」の使い方が上手である。ボランティアワークシヨップでもたっぷり勉強させられるが、教育する方も豪華な朝食、昼食、コーヒー&クッキーと、食べることが大好きなアメリカ人の性格をつかんでいる。

私の関わる「ジョブハブ」のボランティアコンサルタントのメンバーたちは、お金をもらっても自分がしたくなければ動かないタイプ。しかし、パーティ好きで社交家の彼らにとって、毎年、仕事納めになると、AARPからイタリア料理のレストランでの昼食会への全員ご招待という行事はとつてもお気に入り。曜日で仕事を割り当てているため、普段はメンバー同士顔を合わせる事が殆どないためである。2000年は12月28日に行われたが、今回は、私が加わったため今までと違っていた。同年11月24日にニューヨークで結婚した私のお祝いパーティとなった！本当に、人を驚かせるのが大好きなアメリカ人たちである。私もお祝いのケーキを目の前にして、幸福感とともに来年もがんばって仕事をしようという気にさせてくれるAARPのボランティアワークである。

また、今年「ボランティア国際年（IYV 2001）」であるが、AARPニューヨークオフィスはニューヨーク市でIYV 2001委員会の主要メンバー。昨年の「国際高齢者年」に続き、その組織力が期待される。

AARPのURL：<http://www.aarp.org>

溝田弘美 (Hiromi Mizota Wimalasiri) のURL：<http://www.geocities.com/hiromimw/>

E-mail: hiromimw@hotmail.com